

第50回 全国国語科教育研究大会

全国創造国語研究会 研究協議会記録

【大会主題】
自分の願いや考えをもち、生きる力に連動する
深い読みのできる子どもの育成



期 日 : 平成23年11月25日(金)
会 場 : 山口県山口市立小郡小学校

主 催	全国創造国語研究会	全国日本語教育学会
	山口創造国語研究会	山口市立小郡小学校
後 援	山口県教育委員会	山口県教育委員会
	山口市小学校長会	
	(財)山口県ひとつづくり財団	(財)日本教育公務員弘済会山口支部

研究協議会① 4年2組 ピアニスト福田 直樹 先生 公開授業について

1 研究協議題

音楽の持つメロディやリズムの表しているもの、音楽と国語のつながり、音楽の中に国語性をどのように表していくか。

福田先生のお話

詩や朗読の中にリズムが出せないというが、生活の中からもリズムは取り出せる。国語と音楽のつながりには、先生につながる気持ちが大切であり、音楽は気持ち・心を子ども達に通じさせ、障害児の心も落ち着かせる。シュタイナー教育では「教育は芸術」であり、先生達も一緒に勉強し、先生達が一緒に一つの芸術を大事にすることにより、一人一人が芸術になっていく。雑な部分を排除して芸術が残り、子ども達と先生達が作る学問が芸術であると唱えている。ドイツは言語・国語に対する意識が高く、ルターやゲーテなどの詩人も多い。モーツアルトの緊張感やリストの調和・色など様々な例を理解して命として生かしていくことが、子ども達と感動して成長していくことである。音楽は一つの手段であり、最終的には命と命の結びつきである。お互いに気付かせていくことで融和し、その気付くきっかけは音楽である。

脳の中の言葉を発達障害児は、うまく引き出せない。同じピアノを弾いても伝わり方が異なり、表現しやすい雰囲気を感じ取っている。自閉症児50人が1時間静かにピアノを聴けたが、音の中にある言葉の要素を感じとり、対話の中に入っていき空間であった。しかし、同じ曲でも異なる楽器だと違うように聴こえる。

空間の中のたくさんの層を何種類聞き分けることができるかということを考えてとき、

- 1層目：自分を客として見られるか→そこで初めて空間の中で生きる（例；板書・指導案）
 - 2層目：その空間をもう一つ上から見られるか（例；子ども達から見る）
 - 3層目：その空間をどこから育てていられるか→空間の中で甦らせる（例；やりとりを上から見る）
- そして4層目に、もう一つ上から見ること最終的には大きな空間になり、どんどん増して厚みが増えて、自分の表現を一つの題材として、その後生かしてくれるようになる。

会員のみなさんからの感想

- ・幼稚園の時からピアノを習っていたので、今日、福田先生が演奏された曲はほとんど弾けますが、私の弾くピアノとは違うものを感じます。国語とのつながりがあることを学ばせて頂いて良かったです。
- ・同じ曲でも福田先生と別の先生では、また違うように聴こえると思います。人間が違うように、その人の生きてきた経験・学んできた学習・人間としての心の厚み等でも異なると思います。又、伝えるということで音楽は一つの手段であり、それが図工であったり社会であったり理科であっても良いのではないだろうかとも思われますし、大事なのは、やはり心と心のつながり・子供と先生につながる気持ち・関係なのだと思います。
- ・少しは気付いていたこともある音楽と国語の意外なつながりを、はっきりと表示して頂きより授業も深められそうです。ありがとうございました。

1 研究協議題

昔話を楽しむ力を付ける学習の仕組み方、支援のあり方は適切であったか。

① 成果

- 何のために学習するのかを伝えるため、言語活動の流れを「ホップ、ステップ、ジャンプ」の3段階で早めに示し、ゴールを見えるようにしてあって、学習意欲が持続できていた。

音読時の「読み方のよい点」を出し合って、読み方を考えていく活動のモデルを知ることができた。ここでの「読み方のよい点」は子どもたちが、共通してできることをお互いにアドバイスすることにもなり、一人ひとりの音読のめあてにもなっていくことが確認された。場面や情景について理解して読むことが、「工夫して読む」になる実感を子どもにもたせることができた。

② 課題

- 教科書にない題材を扱うことは、「これから本に向かうぞ」という意欲を持たせるにはよいが、指導計画を改善しながら、組み合わせて内容が合えば差し替えたりしていく必要がある。

昔話は各地の昔話にも共通したものがあり、おもしろさを感じながら読む、声に出して読むことで昔話の楽しさを実感できるが、聞いてもらえる相手や伝えたい相手というような「相手意識」を学習のなかで、培っていく必要がある。

2 ご指導の内容（指導者 前京都市立二の丸北小学校 校長 荒井あや子 先生）

- 学習のステップをはっきりさせていた授業であった。言語活動では、「なぜ」「どうして」「どうなるんだろう」というはじめて学ぶに出会うときに、「一緒に学習するって楽しいなあ。」と思いつける活動でなければならない。その楽しい学び合いと自己評価の繰り返しが力になる。上学年にいくにつれて、振り返りカードの中に「こんな勉強もしてみたい」ということが出てきて欲しい。
- 一般にコミュニケーションの力が弱いといわれるが、その力はつけていくもので、生きる知恵を授けてくれる昔話の学習は効果がある。国語科というより国語教育をすることである。人としてどう育てるかという視点での取り組みが重要である。

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援のあり方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化に触れることができた。
- 話の面白さに加え、独特の語り口調や言い回しや方言などにも気づいていた。
- 佐賀と山口の同じ題名で地元の昔話から入ることは、興味関心がわき、読書生活に誘う学びへと意識づけられていた。
- 伝統的な言語文化の教材化として、教科書に載っていない地域に伝わる昔話を学習材としたがよかった。
- 山口には、きつねの昔話がたくさんあることを知り、授業後すぐに紹介された本にとびついてきたことは、ねらいを達成できていたのではないか。

② 課題

- 昔話のような難しい言葉や文の意味を理解させるのに、教師が改作してもいいのだろうか。
- 読書しない子どもたちに授業の中でどう言葉のおもしろさを伝えていったらよいか。

2 ご指導の内容（全国小学校国語教育研究会 顧問 蛭田 正朝 先生）

- 音読・音声化を取り入れるため、授業の中で読んでリズムを身につけさせるとよい。
- 名文を大切にし、たくさん暗唱させ、親しみある文にふれさせることが大切。
- 伝統的な言語文化にふれ楽しく読むことは、古い時代の言葉を意味解釈しすぎるより、自分の体の中にリズムとして、また感覚として取り入れて音読、暗唱させていくとよい。
- 比較させる場合は、中心となる文をじっくり読み、違いを見つけさせるとわかりやすい。
- 今後も読書活動を継続させてほしい。

1 研究協議題

基礎的技能、基本的能力、伝え合う力を付けるための支援のあり方は適切であったか。

① 成果

- 児童は、自分の選んだ短歌の理由を述べ、またその発言にコメントすることができた。
本時に至るまでの過程において、担任の先生と連絡を取り合うことにより、自分が好きな理由を筋道立てて説明できるようになっていった。
- 朝学や国語の時間を通して、短歌の学習を進めることにより、音読の力がついてきた。俵万智さんの短歌は、最初は読みにくかったが、短歌の学習を続けることにより、子どもたちにもじっくりなじんできた。
- 意見交流もしっかり行うことができていた。事後の児童の感想からもその交流がねらいを達成させるために効果があることがわかった。

② 課題

- 授業者の自評により「飛び込み授業の限界もあり、本時においては知識や技能をつけることができなかった。」と語られ、このことも研究協議の話題になった。短歌の音読をする中でそのイメージを持たせつつ、その知識や技能を折に触れて児童に示すといった指導計画の作成も必要になると思われる。
- 今後は、この短歌の学習を通して、児童が短歌についてイメージをふくらませながら、どれだけ語りかけられるようになるか。そこが大切になってくる。

2 ご指導の内容（全国創造国語研究会 顧問 佐藤 修 先生）

- 伝え合う力、交流が大切にされた授業であった。聴き合うなどの交流もとても大切である。まず児童の感動から切り込んでいき、韻を踏むことや七五調などを教えていくことが伝統・文化の継承につながってくる。そのことが日本の心を児童に伝えることとなります。
- 児童に音読する力が身に付いており、指導の成果が十分出ている。山本先生と担任の先生の授業を通しての交流が、効果的であった。
- 児童の交流の仕方を提示したのは、わかりやすく効果的であった。「短歌に対する思いをうけとめてもらってうれしい。」と児童も満足することのできた授業であった。
- 授業を通して、国語をきれいにさせてはいけない。好きにさせないといけない。これからも言葉によって人間形成がなされるべきであり、もっともっと音読・朗読をすすめてほしい。
- 短歌・俳句が世界に広まりつつある現在、児童にも短歌・俳句のよさを教えていかなければならない。

研究協議会⑤ 4年2組 八王子市立由木中央小学校 石川 和広 教諭 公開授業について

1 研究協議題

伝統的言語文化（短歌）に親しむの指導のあり方について。

① 成果

- 古典（百人一首）だけでなく、近代の短歌（ドラえもん短歌など様々なジャンルから）に親しむ事ができた。
- 伏せ字になっている部分の言葉を探る中で、短歌の字数だけでなく、前後の言葉に着目し、自分たちの生活経験の中から、一生懸命想像を働かせることができた。
- 内容を想像し、自分のお気に入りの短歌を選ぶことができ、音読することができた。

② 課題

- 感性を育てる伏せ字部分の選び方はどうあればよいのか。
 - ・伏せ字にする部分は、季節。学年の発達段階などを考えて選ぶ。
 - ・隠す数
- リズム感や内容に親しむことと、気持ちを音読で表現することのつながり方はどうあればよいのか。
- 中学年での短歌の解釈は、どうあるべきか。

2 ご指導の内容（全国小学校国語教育研究会 顧問 石野 日出夫 先生）

- 子どもたちのなりの言葉で、よく読み取っており、すばらしい子どもたちだった。
- ヒントを出すというクイズではなく、句の中からヒントを見つけるのもよい。
- 言葉にこだわって、情景を思い浮かべ、豊かに想像させることで気持ちが分かるので、短歌を表現読みする必要はない。
- 短歌に親しむことを目的とするのならば、リズム感を楽しみ良さを引き出すことでよい、好きな短歌を選んだを理由を書く必要はない。理由を求める事で古典嫌いをつくってはいけない。
- よい授業とは、生き生きと言語行動をする中で、基礎基本を身につけ、たくさんの世界から自分のお気に入りを見つけていくことができる授業である。
- 伝統的文化は、解釈は自由で、味わうことを大切にすることで、日本人の感性を継承し、発展させたい。

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援のあり方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 音読を授業の流れの中でさせることで、内容を少しずつ理解していく様子が分かった。
- 難しい教材であったが、伝統的文化に触れさせたり広げたりする方向性に向かっているのよかった。
- 何度も音読することの良さを子どもたちが体感している。
- 短冊を使用したことで、選んだ一文に気持ちを乗せて一字一字ていねいに書くことができた。
- 内容は難しいが想像しながら読みとっていた。
- 音読のさせ方の工夫で子どもたちの読みにリズム感が出てきた。

② 課題

- 難しい内容を教える時、子どもたちに意味をどの程度理解させたらよいか。
- 言葉の奥まで読みを深めていくにはどのような手立てをとったらよいか。
- 子どもたちの生活に「草枕」をどう結び付けていったらよいだろうか。
- 内容説明を必要とする場合、授業の時間配分をどのようにしたらよいか。
- 子どもたちが共感できる部分を深めるためには、学習活動をどのように厳選していったらよいか。

2 ご指導の内容（全国小学校国語教育研究会 顧問 福本 菊江 先生）

- 難しい内容を教える場合、意味をどの程度理解させるかは授業者が考えて授業をすることが大切で、その内容は授業者が決定してよい。
- 美しい日本語が話せる子どもの育成は音読からもできる。
- 国語の授業では「自己実現」「自分たちがどう生きていくか」「自分で考える力」をつけていくことが大切。
- 「声に出して読む」「暗唱するまで読む」活動を繰り返す中で頭の中にイメージが湧き、伝統文化に親しむことにつながる。
- 良い音読は澄みきった声が出ることで、その為には継続的な指導が必要である。
- 誉め言葉は子どもたちの自信につながる。

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援のあり方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 先人の言葉を自分の生活と結びつけることは素晴らしい。吉田松陰の言葉を4つから子どもが選んだが、選ぶという行為には必ず根拠がある。根拠からも自分の暮らしに生かそうとする姿が見えていた。素晴らしい授業展開であった。
- 子どもたちにとって難しい言葉だったが、子どもたちは意味を調べて大意をつかもうとしていた。今の生活につながっていることがわかると、松蔭先生の言葉が自然に子どもたちに入っていた様子だった。
- 最初はぼんやりしているものが明確になっていく、そして学習の最後には自分の変容に気づくという学習活動が見事に展開されていた。
- 論語も流行している、学習指導要領でも古文にも重点が置かれている昨今、子どもたちにとって難解な言葉を学習するとき、一つの有効な方法であった。

② 課題

- 歴史上の人物を言葉によって表現するのは難しい。統合発信力という観点では、統合発信力とは、自分で課題を見つけ探究、さらに発信し伝え合う力だと捉えている。総合の国語版というような考えで学習活動を考えている。もっと十分に時間があれば十分に探究、発信ができるのではないか。
- 塾生を育てた松蔭先生の言葉は重い。一つの言葉だけに絞っても十分たえうる授業になったのではないか。4つあるのはもったいない。

2 ご指導の内容（全国小学校国語教育研究会 顧問 中村 泰夫 先生）

- 教科書を教えるのではなく、教科書で教えなければならない。この教材を選んだということは地域を教えるということである。実生活に生きる教材を選ぶことが大切である。
- このような単元を組み込む時間の生み出し方であるが、時数は指導書のとおりに進める必要はない。3つ文学作品があれば、1つは好きなところをクローズアップしてするなど、教材の扱い方を柔軟に考え、本時のような時間を生み出すとよい。
- これまでの国語科教育は「読む→鑑賞」であった。これからの国語科教育は「読む→鑑賞→創作（書く）→鑑賞」で、これが一つの学習である。

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援の在り方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 物語の楽しみ方を教える教材としての位置づけ。
- 音読の有効活用・・・お話の世界にどっぷり浸からせる手立て。
- 動作化の意義・・・説明しきれないところを動かすことで表現させる。【目の模型】
- 劇化（お面の使用）・・・お話の世界に入り込む手立て。想像を助ける手立て。
- 板書・・・低学年だからこそ、視覚に訴えることが重要。

② 課題

- 単元を貫く言語活動（たとえば手紙を書くなど）・・・新学習指導要領の目玉である。
 - ・手紙を書くという目的意識、大好きな人を書くという相手意識。
 - ・毎時間、単元を貫く言語活動に立ち戻ることが大切である。
- 理由を発表することが難しい。
- 教師の教材研究によるこだわりたい言語・文章をもつことが大切。【本時はくるりくるり】

2 ご指導の内容（山口市教育委員会 指導主事 中谷 仁美 先生）

- 学習環境のすばらしさ
 - ・秋をイメージした教室経営。
 - ・図書館経営のすばらしさ
- 授業について
 - ・後藤教諭・・・子どもたちへの適切な声かけ
本時のゴールを最初に提示する手法
子どもの変容を看取る技量
 - ・上田校長・・・子どもの思いを引き出す技術の巧みさ
- 評価規準
 - ・より具体的に表記することが大切である。
 - ・例・・・想像しているよりもつぶやきを書いている方がよいのでは・・・

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援の在り方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 学習のめあてを、「おもしろさのひみつを見つけよう」としたことで、場面ごとのたまや子ねずみたちの言葉や行動をとらえさせることができた。
- 3枚のイラストを示すことで、1年生にニャーゴのおもしろさを伝えるための視点がはっきりした。
- 「たまの食べたいメーター」としてたまの思いを考えさせることで、子どもたちの読みが深まったと思われる。
- たまの涙を「感謝」と「くやしさ」の2通りに子どもたちはとらえた。これを学習のチャンスととらえ、ニャーゴのおもしろさを読み取ることへとつなげていくとよい。

② 課題

- ねらいに即した言語活動が単元を貫いていなければいけないので、言語活動をどう仕組むかをよく考え、単元計画を立てなければならない。
- 子どもたちの感想や疑問に従って授業を進めることも、言語活動においては大事なことである。
- 宮西先生をゲストティーチャーとして迎えたことで、本物に触れるという価値のある授業になった。しかし、普段は教師が作品のよさを子どもたちにどう伝えるかが重要になる。

2 ご指導の内容（光市教育委員会 指導主事 岩政 浩二 先生）

- 国語の授業において、言葉にかかわるゲームを通して子どもたちに言語感覚をつけたり、子どもたちの発言を肯定的にとらえたりする教師のテクニックも必要である。
- 子どもたちが言うおもしろさを、「これがあるからおもしろいんだ」というように、教師が視点を与えると、子どもたちの目線を変えることになり、どのように整理していったらよいか分かるようになる。
- 言語活動から考えると、単元を貫くもの、例えば「1年生にニャーゴのおもしろさをつたえよう」などがあるほうがよい。他の本との比較や場面をつなげる横断的な読みも大事である。
- 言語活動の中に教えるべき指導内容が入っていないといけない。
- 宮西作品のおもしろさは、
 - ・中心登場人物がはっきり変容している。
 - ・中心人物に対しての人物との感覚のずれがある。
 - ・おもしろいところの中から一番おもしろいところを選ぶのに悩む。などである。このようなことをもとに、他の本のおもしろさにつなげていくことができる。

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援の在り方は、本時の目標を達成するうえで適切であったか。

① 成果

- 予定していた指導案の流れ通りには進まなかったが、お互いの発言をじっくり聞き合う姿勢を大切にすることで、友達がどのように考えているのかを知り合い、それを自分の意見に反映することができた。
- 「単元を貫く言語活動」と「一時間ごとの授業」とのつながりを意識できた。
 - ・事前に行ったミニブックトークを生かし、児童が「家族、戦争」などのテーマを意識しながら学習できた。また、本時が後のブックトークへの意欲向上にもつながっている。
 - ・「わたしだけの物語」を書くためには、必要な場面を読まなくてはならないという展開に設定したことが生かされた。
- 異なる単元構成を提案し、考察することができた。3年生という段階では、発達段階や学級の実態、単元のねらいに応じていれば、どちらの方法でも読みを深めることができていた。
 - ・場面ごとに順を追って、詳しく読む。
 - ・ざっと全体を読んだ後、学習課題を解決するうえで必要な場面を探り、そこを読む。
- 教師の教材解釈、児童への投げかけの際への表現など、基本的なことの大切さを再確認することができた。

② 課題

- 一人学びの際に有効な方法や、難しい児童への支援、後の活動への生かし方。
 - ・一人学びシート（約束事、方法など記載）の活用。
 - ・一人学びが、その後の学び合いにどのように役立つのかを児童が実感できるようにする。

2 ご指導の内容（山口市教育委員会 指導主事 富士本 武明 先生）

- 児童も教師も一人ひとりの発言を大切にし、お互いに思いをつなぎ合っている様子が見られた。
- 児童が課題解決のために、いろいろな場面の言葉を探し出し、それらの叙述を元に主人公の心情にせまっていた。
- 二つの単元構成は、それぞれの実態やねらいに応じており、適切だったのではないかと。
- 3年生への課題設定
「気持ちを考えよう」と提示して、意見が広がり過ぎてしまう場合は、「なぜ～したのだろう」など叙述に沿った具体的な課題を提示すると、深まっていくのではないだろうか。

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援のあり方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 全員発表という成果を達成した。
- 児童の相互氏名という形で授業を進行し、発問により揺さぶりをかけ、児童の拡散した思考を焦点化するという流れがうまく機能していた。
- 場面の区切りを工夫してあったので、場面と場面を結びつける発言が見られた。
- 一人の意見を全員に返すなどの日頃の積み重ねで、一人学びが児童に身についている。

② 課題

- 本時の次の場面の授業をどう展開していくか。
- 単元とした時の学年間の格差をなくすために、どのように年間計画の中につけたい力を明記し、まんべんなく身につくようにするには具体的にどうしたらよいか。

2 ご指導の内容（和木町教育委員会 指導主事 福屋 憲道 先生）

- ごんの中に等身大の自分を重ね、一つの視点で見つめることは大切である。
- 場面を関連してとらえることに関しては、4, 5の場面は、兵十がごんに対する思いを書いている場所であり、伏線としてある。だから、「たった一人」の兵十に対するごんの気持ちとそれを知らないごんとの心の交流が、最後の場面により高められる。

研究協議会⑫ 5年1組 山口市立白石小学校 澄川 昌男 教諭
5年2組 山口市立小郡小学校 竹川 浩治 教諭 公開授業について

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援のあり方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 全体を貫く言語活動のねらいを「紹介文を書く」ということに定め、単元構成を工夫して授業ができた。
- 子どもたちは、本単元の学習の意義とゴール目標を常に意識しながら取り組み、主題に迫る学習方法を身に付けていった。

② 課題

- 物語の全体と個々の文、言葉との関係を意識させるために、全文を見渡せる一枚物のプリントに印刷したが、若干文字が小さくなってしまった。
- 板書は、教師が意図的につくりあげていく方法と、子どもが自ら作っていく方法とがあるが、どちらが有効か、クラスの実態や、学習課題に応じて使い分けたい。

2 ご指導の内容（山口県教育委員会 指導主事 中村 正則 先生）

- 指導要領の変更に伴い、授業をどう変えるか意識して欲しい。

↓

- ・学習したことが、生活の中でどう生きていくのか、他教科とどう関連するのかという視点を持って欲しい。
- ・学び方を明確にし、教室に掲示していくなどし、積み重ねて欲しい。
- ・単元を貫く課題（言語活動）を決め、ゴールのイメージを持って欲しい。
- ・読書活動につながる工夫をして欲しい。（読書コーナーの設置、先生お薦めの本の紹介など）
- 学習習慣をしっかり身に付けさせて欲しい。（音読の姿勢、鉛筆の持ち方など）

研究協議会⑬ 6年1組 宇部市立東岐波小学校教 武居 利彦 教頭

6年2組 山口市立小郡小学校 播岡 淳世 教諭 公開授業について

1 研究協議題

本時の学習課題や学習活動の設定、支援の在り方は、本時の目標を達成する上で適切であったか。

① 成果

- 子どもが発言したくなるような環境作りがされていた。
言いたいと思う雰囲気、ノートにじっくり考えて書く活動、教師による即時評価
- 発言のきっかけをつくることの大切さがわかった。言いたい瞬間を教師が見逃さないことが大切だ。
- カードに書かせて黒板に貼る活動により、一人一人が大切にされていた。子どもたちが安心して位置づけられていた。
- 発言しなかった子もノートにしっかり自分の考えを書いていた。

② 課題

- 物語は、作者の手を離れたときから一つの作品となるので、「やまなし」の学習で宮沢賢治の生き方や妹の事について考えていくことは必要なのだろうか。

2 ご指導の内容（山口学芸大学 准教授 阿川 士郎 先生）

- 「イーハトーヴの夢」を先に読むことで「やまなし」の学習がよくわかる。6年生としては、一つの作品を読むだけでなく、他の作品とのつながりも考えて読むことも大切。賢治の生き方、妹トシの死などと絡めて読む方が6年生らしい読み方である。そこまで学習させたいものである。
- 全学級の公開授業はすばらしい。子どもたちの様子から学級が育っている。また、1時間の学習過程がよく考えられ、子どもたちの育ちが進んでいる。どの子も授業に参加できる素地が作られている。
- 授業の進め方として、教師自身がどれくらい読み取れているかが重要。教材観をしっかりとつことが大切である。
- 授業者の解釈と子どもの思考のギャップがあるときは、表現に即して考えさせることによって少しでも近づけていくことができると思う。